

ふくし TIME'S

<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/>

福祉タイムズ



ともしび運動

8

2007 No.669



〈写真・菊地信夫〉

隣人として心によりそう

神奈川で精神保健福祉ボランティアが誕生したのは1984年10月のこと。相談事業を通じて心の問題を抱える人を支える地域づくりの必要がとらえられていた。本会が事業化し、全国に先駆けて開拓されたボランティア養成講座は3年に渡るもので、受講者とプログラム検討委員会との合同製作といった趣があった。

前田絢子さん(72歳)はその養成講座の1期生である。結婚後、夫、姑、夫の弟妹、娘二人との生活で家庭に入っていたが、自分の時間が少し持てるようになり、「社会で自分を生かす場がほしい」と思っていた時に、新聞で講座の募集を知った。「特別なボランティアを育てるのではありません。地域の隣人として接することを学ぶのです」といった言葉に惹かれて受講を決めた。途中、「自分にはつとまらないのではないか」とやめることも考えた。その時、背中を押してくれたのは、今は亡き夫と、当時大学生の娘たち、そして仲間である。

爾来、精神障害者本人に学びながら仲間とともに精神保健福祉ボランティアに関わり現在に至る。「パセリ」と「まいんどくらぶ」という二つのグループで活動しながら、「神奈川県精神保健ボランティア連絡協議会」(精ボ連)の会長を昨年まで18年務めた。残念な思い出もあるが、嬉しい出来事もたくさんあった。「今年3月に設立総会を開いた特定非営利活動法人“ゆっくりいそご”の今後を見守っていきたい」と笑顔で話される。

CONTENTS

特集

- 評価の受審をサービスの質の向上につなげるために……………2
- NEWS&TOPICS……………4
- 参加と協働……………6
- 連載
- 神奈川の福祉は今ー平塚市の巻ー…………10
- 県社協のひろば
- 神奈川県成長力底上げ戦力推進会議…………12
- かながわHOT情報
- 小規模多機能型居宅介護ひつじ雲…………16

評価の受審をサービスの質の向上につなげるために

～事業所と利用者がともにつくりあげるサービスへ～

特集

神奈川県内における第三者評価受審事業所件数は、平成十九年七月現在、百八十七カ所を数えます（かながわ福祉サービス第三者評価推進機構ホームページより）。また、評価機関かながわで受審した初年度の事業所については、評価結果公表日からまもなく公表期限の三年を迎えようとしています。こうした実績を重ねる一方で、事業所からは、評価が質の向上にどのように活かされているのかわかりづらいという声があります。今回の特集は、事例と現場の声から、評価受審後の質の向上に向けた取組みを紹介します。

評価受審後のフォローとして

評価機関かながわでは、評価実施後おおむね一年が経過した時点を目途に、受審事業所のその後の取組み状況について情報の追加・更新をし、受審後のフォロー体制を整備しています。

今回は、このしくみを活用して情報を公表した二カ所の事業所にお話を伺い、評価の受審が具体的にどのような質の向上につながったのか検証します。

第三者評価を受けた後に見えたこと／ふたつの事例から

■芭蕉苑 介護老人福祉施設

（藤沢市）

第三者評価について、「提供しているサービスの客観的なふりかえりと気づきを目的に受審しました」と、施設長の棒さん、部長の白井さんは話します。

受審を通しマニュアルの重要性に気づいたことで、従来のものを見直し、さらに職員間での技術や知識の共有ができたといえます。「マニュアルをもとに、新しく入った職員でも一定の水準のケアを行うことができるので、リスクの軽減や利用者・家族の安心につながっています」と話します。

また、芭蕉苑はPDCAサイクル（※1）の考え方を参考に、人材育成に力を入れています。「職員のやりがいを高めるために、社会的に評価されることを大切にしています。研究発表等の場には積極的に出てもらうようにしています」と白井さんは話します。そのような施設の方針にあって、「日々、主観的にサービスを行っている中で、自分たちの行っているサービスが客観的に認めても



■特別養護老人ホーム 草の家

（南足柄市）

草の家の場合は、「客観的な評価を受けたという思いと、選んでもらえる施設」をめざしての受審でした」と、生活相談員の古谷さんは話します。



「良い点を認めてもらったことが職員への励みになり、さらなる努力や工夫が必要とされた苦情解決システムや食事支援等の改善に、受審後すぐに取らかりました」と、職員の意欲の向上によって、迅速にサービスの質の向上につながった経過を話します。

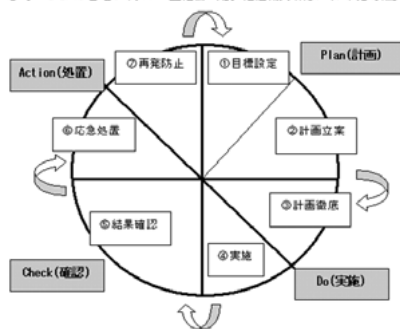
また、利用者のより詳しい身体状



※1：PDCAとは

PLAN（計画）－DO（実施）－CHECK（確認）－ACTION（処置）の頭文字の略で、マネジメントサイクルのひとつです。この四つを繰り返すことで段階的に業務の改善をはかることができます。

＜参考＞PDCAの管理サイクル 全社協：改訂「福祉職員研修テキスト指導編」（2000）より



況や意向がつかめるようフェイスシートを何度も改訂したり、見やすく実用的な業務マニュアルを作成したり、改めて職員で倫理綱領の読み合わせを行うなど、常にサービスの見直しを行っています。

「建物の間取りは限られています、工夫をこらし、ユニット化をすすめるなど利用者の個別支援に力を入れています」と新たな展開が進んでいるそうです。

事例から共通して見えること

芭蕉苑や草の家の取組みから、質の向上への共通した姿勢をいくつか挙げる事ができます。

共通点のひとつは、評価を通しての気づきが動機付けとなり、継続的な質の向上につながっている点です。「マニュアルを何度も改訂している」「職員の意識が向上し、研修の回数を大幅に増やした」という事業所の工夫からは、質の向上への取組みが、受審時という「点」だけでなく、受審時から現在までの「線」になり、継続的に質の向上が図られていることがうかがえます。

ふたつめは、評価を軸にした計画的な質の向上への取組みです。「職員の入れ替わりがあった時期にもう一度受審したい」「働き始めて三年

程度の職員にとってふりかえりの機会に」という声からは、事業所内で評価を受審する意味づけが整理され、評価をツールとして使いながら計画的にレベルアップをはかっていることとする事業所の意欲がうかがえます。制度改正の影響等により、サービス提供現場では人材の確保が大きな課題となっており、職員の入れ替わりが多くサービスの質の維持に苦慮しているという声が聞かれます。このような厳しい状況にあるからこそ、計画的・組織的な視点をもって質の向上に取り組むことは非常に重要なことといえます。

みつめは、常に実施しているサービスの内容をふりかえるという視点です。「家族のつどいや意識調査を定期的に行い、サービスに対する利用者の意見を積極的に検討して改善につなげている」という事例からは、サービスを実施する事業所側からは見えにくい課題が、利用者の目を通してあきらかになったことがわかります。日頃から自分たちの提供するサービスを検証するしくみを持ち、活用することにより、効果的な質の向上が期待できます。

事業者と利用者の橋渡しに

ふたつの事例は、受審後の意欲的

な取組みがサービスの質の向上につながっていることを示しています。

本会で新しく始めた「追加情報」（※2）は、まさにその支援をはかるものです。事業所の努力を具体的に利用者と情報共有することで、コミュニケーションが活発になります。その結果、相互に理解が深まり、サービスの質のさらなる向上につながるという効果が期待できます。

「追加情報」については、ひきつづき受審年度順に事業所情報の募集・提供を行っていく予定ですので、ぜひ活用ください。

（企画調整・情報提供担当）

※2：「第三者評価結果における事業所の取組情報の追加（更新）」について（「追加情報」とは

評価機関かながわでは、評価後おおむね一年が経過した時点を目途に、事業所の取組み情報の追加・更新を行っています。

事業所からは、評価受審の動機や受審後の気づき、具体的な取組状況、今後に向けて等の情報を提供していただき（任意）、評価機関での事実確認とコメントを加えてホームページで公表しています。ぜひご覧ください！

＜ホームページアドレス＞

<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/syakyo/hyouka/3hyouka10.html#tuika>



10月から、神奈川県子ども・子育て支援推進条例が施行

「生まれてきてよかった」「生み育ててよかった」と実感できる神奈川をめざして

長い間人口の増加が続いている本県では、経済的にも文化的にも活力と魅力に富み、少子化や人口減少についての実感を持ちにくい状況があります。

しかし、一方で、子どもや子育て家庭をめぐる問題が顕在化・深刻化しています。

そこで、子どもの安全な生活が確保され、子どもが健やかに生まれ、育つことができ、県民が安心して子どもを生み、育てることができる環境の整備を図るため、神奈川県子ども・子育て支援推進条例を制定しました。

〈条例の基本的考え方〉

子ども・子育て支援の推進にあたっての基本理念を定めています。

- ①子どもの人権の尊重と、子どもが権利の主体として自己を敬愛し、自主及び自立の精神を養い、学習体験等を通じて人格を形成すること
- ②結婚、出産及び子育てに関する個

人の価値観を尊重すること

- ③父母その他の保護者が子育てについての第一義的責任を有するとの認識の下に、家庭その他の場における生活を尊重すること

- ④子どもを生み、育てることに真に誇りと喜びを感じることができ、社会の実現の重要性を十分に認識し、県、事業者、子ども・子育て支援機関等及び県民が相互に連携し、協力して推進すること

〈子ども・子育て支援のための県の取組み〉

県として取り組んでいくことを定めています。

○子どもに対する支援

- ・生命の尊厳等についての教育の充実
- ・子どもの安全な生活等を確保するための支援

- ・いじめ、虐待等による子どもの人権侵害の予防措置
- ・養護を必要とする子どもの福祉の充実等

○子育て家庭に対する支援

- ・子育ての負担軽減を図るための支援
- ・職業生活と家庭生活の両立のための措置

- 事業者、子ども・子育て支援機関等の取組みの促進

- ・子育て支援（仕事と子育ての両立支援や働き方の見直し等）の取組みについて、基準に適合する事業者の認証等

- ・県の事業実施にあたっての子ども・子育て支援を行っている事業者への優先的な取扱い等の配慮
- ・事業者、子ども・子育て支援機関等に対する情報提供や助言、研修等の支援

○取組みの推進のために

- ・子ども・子育て支援の推進に寄与した団体や個人の表彰
- ・かながわ子ども・子育て支援月間（8月、実施は20年度から）

- ・子ども・子育て支援に関する報告書の作成・公表
- ・県の子ども・子育て支援に関する施策に対する県民意見の反映

☆ ☆ ☆

本県の子ども・子育て支援の推進のためには、事業者や県民等の皆さんと県が力を合わせて取り組むことが必要です。子どもと子育て中の県民が生き生きと輝き、持続可能で活力ある地域社会づくりのためにご協力をお願いします。

【問合せ先】 ☎ 045-210-4666

（県保健福祉部子ども家庭課）

盲特別支援学校の子どもたち 写真展に大きな反響

視覚障害のある子

どもたちが撮った写

真展が、七月三日

(火) から八月二十

六日(日)まで、日

本新聞博物館(みな

とみらい線・日本大通り駅直結、根

岸線・関内駅徒歩十分)(月曜休館)の

二階ロビーで開かれています。

「Kids Photographers 子どもは天

才!」というこの写真展は、横浜市

立盲特別支援学校に通う小学生から

高校生までの二十三人が、今年二月

に写真家、管洋志さんと出会い、先

づは初めてカメラを触るところから

はじまったものです。

子どもたちは「自分の好きなもの」

をテーマに、一人ひとり、思い思い

に、友だち、弟、姉、父親、祖母、

近所の子、愛犬、夕焼け、花、電車、

さまざまな被写体を撮りました。写

真展を飾った八十四枚の作

品には、作者の性格が表れ

たコメントがそえられてい

ます。



「目の見えない人がいったいどうやって撮るんだろうと思って関心を持ちました」と、多くの人が来場の動機を語ります。そして、誰もがじつくりと写真に見入り、「寝息が聞こえてくるような子どもの表情がとってもいい」、「山手線と湘南新宿ラインの電車が絶妙に並んでいる」など、感心する声があちこちで上がります。作品を見ての興奮は、会場に置かれた感想ノートにメッセージとして次々に書き記されています。

テレビニュース、ラジオ、新聞、雑誌などで紹介されたこの写真展は、週末だけでなく、平日も来場者が絶えません。



しせつの損害補償 プラン1. 施設の業務中事故賠償補償②

(個人情報取扱事業者保険)



個人情報漏えい対応補償

この補償制度では、利用者の個人情報を漏えいし、法律上の賠償責任を負った場合(おそれのある場合も含む)の損害賠償金等を補償します。

◆補償金額

	Aタイプ
第三者への損害賠償に関する補償 ○損害賠償金 ○争訟費用	3,000万円
ブランド価値のき損を防止・縮減するための補償 ○クレーム対応費用 ○見舞品購入費用等	期間中 100万円
免責金額	第三者への損害賠償に関する補償とブランド価値のき損を防止軽減するための費用 合計5万円

◆年額保険料(掛金)

法人で運営している施設定員数	Aタイプ
～50名	30,000円
51名～100名	37,000円
101名～150名	44,000円
151名～200名	51,000円
以降1名～50名増ごとに	4,000円

補償内容

- 第三者への損害賠償
- ブランド価値のき損を防止・縮減

ホームページでも内容を紹介しています。 <http://www.fukushihoken.co.jp>

●詳しい内容のお問い合わせは下記にお願いします。

団体
契約者

社会福祉法人
全国社会福祉協議会

取扱
代理店

株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
(引受幹事保険会社) 株式会社 損害保険ジャパン

(SJ06-12549. 2007. 3. 19作成)



参加と協働のページ



セルフヘルプ・グループの本人からのメッセージ

かながわボランティアセンターではセルフヘルプ・グループの支援を行っています。かながわ県民センター15階で活動している24のセルフヘルプ・グループが集う「セルフヘルプ相談室利用グループ懇談会」は、各グループの活動内容を発表し、グループがもつ特性や課題を共有しあうなかで、グループ同士のネットワークがつむがれていくことを期待して年2回開催されています。先日の懇談会に参加した方から寄せられたその様子と感想をご紹介します。

私たちは、摂食障害に悩む本人たちのセルフヘルプ・グループとして活動しています。県社協かながわボランティアセンターのセルフヘルプ・グループ支援の一環であるセルフヘルプ相談室をおかりして、毎週、ミーティングを開催しています。支援を受けるようになって3年目になり、この数年間でグループは大きく成長しました。

まず、安定した自分たちの居場所ができました。私たちのグループにとって、仲間と集う場は、社会的に孤立した状態から共通の生きづらさを持つ仲間と初めて出会い、様々な体験を正直に語りあい、心の重荷をおろしていく場です。また、自分に對して自己評価が低く、つねに自責の念にとらわれている本人が自分自

身を解き放ち、生き方の回復を目指す尊い場でもあります。そのため、当事者が集う場は、社会的に守られ安全に感じる場所であることがとても大切になります。その点で社会的に信頼の厚い県社協が提供する相談室は、セルフヘルプ・グループの門を叩く人たちが、安心して足を運べるかけがえのない場です。県内には、摂食障害のセルフヘルプ・グループ

がない地域がまだ多く、この点でも広域の県社協だからこそ、孤立した人々を集めることが可能になります。また、かながわボランティアセンターのセルフヘルプ・グループ支援には、セルフヘルプ交流サロン、セルフヘルプ懇談会、協働事業などもあります。セルフヘルプ懇談会や交流サロンでは、他のセルフヘルプ・

グループと出会い、お互いの知恵や気持ちをわかちあうことが出来ます。セルフヘルプ・グループにとって、これも大変意義のある支援です。私たちのグループでは、他グループとの交流を通して、グループの種類や抱える生きづらさは違っていても、なぜ私たちはセルフヘルプ・グループ活動を行うのかという原点は同じであることに気づかされ、これまで以上にセルフヘルプ活動を行う意味をしっかりと認識するようになりました。

セルフヘルプ・グループは、仲間との相互援助を通して、これまでの人生にはつきりと意味を与え、再び生きる力を獲得するような、既存の公的援助では得られないもう一つの援助の領域を担っています。しかし、運営や資金など基盤が弱く、何らかの支援がないと活動の継続や発展が難しい面があります。かながわボランティアセンターが当事者とともに歩んできた地道な支援や安定した居場所の提供は、何よりセルフヘルプ活動を理解し支えてくださる暖かい支援だと思っています。

「よこはま摂食障害の会」O・M

第二十回を迎える全国健康福祉祭(ねんりんピック)

「ねんりんピック」の愛称で親しまれている「全国健康福祉祭」は、今年で二十回を迎え、十一月十日(土)～十三日(火)まで、茨城県内十九市二町で開催されます。

本県では、「ゆめかながわスポーツ健康シニアフェスタ」(通称シニアフェスタ)を開催していますが、この全国大会に出場する選手の参考記録会を兼ねて実施しています。(※指定都市枠の選考は別。)

今年のシニアフェスタは、十一月十七日(土)を皮切りに、十二月一日(土)まで、六つの会場で十三の競技種目を実施いたします。昨年は約三千五百名の参加を得て行われました。

グラウンドゴルフやペタンクなどは老人クラブなど地域の中で参加する機会を得た方が多いようですが、テニスやサッカー、ソフトボールなどは、若い頃の仲間が再び集まってチーム結成という場合が多いと聞きます。

試合の勝ち負けというより、爽快な汗とともに、仲間同士の励まし合

い、気遣いがたまらないというのが参加者の声です。

今年成績優秀な方は来年鹿児島大会の派遣候補となります。

ねんりんピックには、毎年、百余名の選手団を本県で派遣しています。「狭き門」か「広き門」か、まずはやれそうな種目にチャレンジしてみませんか。

(かながわシニア社会参加推進センター)

〈シニアフェスタ2007の種目〉

ソフトバレー	グラウンドゴルフ
ソフトテニス	ダンス・スポーツ
太極拳	剣道
ソフトボール	弓道
テニス	ゲートボール
サッカー	ペタンク
卓球	



全国健康福祉祭(ねんりんピック)のあゆみ

年	平成	開催回数	開催地	テーマ
1988		第1回	兵庫県・神戸市	いのち輝く 長寿社会
1989	1	第2回	大分県	健やか人生 きらめく生命
1990	2	第3回	滋賀県	輝く長寿 あなたとともに
1991	3	第4回	岩手県	あさえる長寿 あなたが主役
1992	4	第5回	山梨県	健やかに 伸びやかに 晴れやかに
1993	5	第6回	京都府・京都市	健康 ふれあい いきいき長寿
1994	6	第7回	香川県	健康発 長寿行 オリーブ色の風に乗る
1995	7	第8回	島根県	ひろげよう 神話の里から 長寿の輪
1996	8	第9回	宮崎県	太陽の国 ひらく長寿の 夢ページ
1997	9	第10回	山形県	すてきに輝け ねんりん青春
1998	10	第11回	愛知県・名古屋市	年の輪 人の輪 元気の輪
1999	11	第12回	福井県	ねんりんの パワーを生かす 新時代
2000	12	第13回	大阪府・大阪市	なにわから 未来にかける 長寿の橋
2001	13	第14回	広島県・広島市	あなたの笑顔にあいたいけん
2002	14	第15回	福島県	ほんとうの空に輝け ねんりんの輪
2003	15	第16回	徳島県	ねんりんの 渦よ 輪になれ 踊り出せ
2004	16	第17回	群馬県	ぐんま発の応援歌
2005	17	第18回	福岡県・北九州市・福岡市	長寿の話(わ)、ひろげて人の輪、アジアの和
2006	18	第19回	静岡県	奏でよう ふじのくにから 健康賛歌
2007	19	第20回	茨城県	さわやかな 長寿の風を 茨城に
2008	20	第21回	鹿児島県	かごしまで 元気・ふれ合い・ゆめ噴火
2009	21	第22回	北海道・札幌市	ねんりんに 夢を大志を 青春を

今秋のシニア関連イベント情報

名称	内容	期 日	会 場
かながわシルバー美術展	日本画・洋画、書、彫刻工芸、写真などの作品展示	8月30日(木)～9月2日(日)	県民ホールギャラリー
あなたの「元気サポート」展	シニア向けの体力測定、健康方法、手作り作品など	9月17日(月)	横浜新都市プラザ (横浜駅東口そごう前)
かながわシニア短歌大会	中学生・高校生、介護者、シニアの方の短歌入選発表	10月13日(土)	横浜情報文化センター
シニアフェスタ2007	本頁紹介のとおり	11月17日(土)～12月1日(土)	県立体育センター他



横浜市営地下鉄で よこはまの旅

夏休み真っ只中、親子で満喫していますか？ 毎日遊んでばかりで子どもの宿題が心配になってきた方、大丈夫です。自由研究にぴったりの博物館をご紹介します。まだまだ遊び足りない方、全天候型でいつでもOKのレジャープールへご案内いたしましょう。

NPO法人 ままとんきっず

1993年、子育て中のおかあさんが集まり、子育てタウン情報誌「ままとんきっず」を発行。以後、子育てに関するメール相談、地域の親子が集うサロン運営、各種講座の開催など、子育て支援活動を展開。2004年「かながわボランティア活動推進基金21ボランティア活動奨励賞」、2006年「第19回神奈川県地域社会事業賞」を受賞。おかあさんたちの目線による情報誌・単行本の発行物は30冊を数え、一部は海外でも翻訳出版。最新刊は「ままとんきっず16号 幼稚園・保育園特集2007・08年度版」(ままとんきっず)、「先輩ママの『私はこうして乗り切った！』妊娠・出産／0歳児／1歳児」3冊シリーズ(PHP研究所)、「各駅発!!ファミリーおでかけガイド神奈川」(メイツ出版)。(連絡先) 川崎市多摩区菅田堤3-5-43
TEL/FAX:044-945-8662、HP: <http://www.mamaton.jp.org/>

自由研究に歴史体験はいかが 「横浜市歴史博物館」

はじめに、自由研究のヒントとなる展示や体験学習が楽しめる「横浜市歴史博物館」をご紹介します。

センター北駅「出口1」から道案内の標示板にしたがって徒歩五分。広々とした建物内には「横浜の人々の生活の歴史」をテーマに、二万年におよぶ地域の歴史が展示されています。原始から近現代まで時代ごとに六つのブースに分けられた常設展示室は、展示ケースを使わないオープン展示を多く採用。市内から発掘された土器や道具などをガラス越しではなく、直接間近に見ることができるので、質感まで手に取るようにわかります。ジオラマや映像による展示も迫力たっぷり、歴史のひとこまを興味深く体感できます。

企画展示室では期間ごとに特別展(九月二日までは「乗り物・おみやげでたずねる昭和30〜40年代の旅」展)を開催。特別展に合わせた展示を行う体験学習室では昔の旅姿や駕籠、火打石の体験をしたり、クイズシートに挑戦したり、楽しみながら



毎月行われているさまざまなイベントや体験教室も見逃さない。



展示台が低いいため、子どもや車椅子利用者にとって見やすいのも特徴。

歴史を知ることができます。体験学習室と図書閲覧室は入場無料で、気軽に歴史体験や調べものができるため、自由研究に大いに活用したいものです。一階のミュージアムショップでは勾玉作りができる「まがたまキット」、はにわや土器を野焼きできる「やけるんだセット」を販売。こちらは夏休みの工作に、だれでも簡単に取り組めると人気があります。

博物館の隣には国指定史跡「大塚・歳勝土遺跡」を整備した遺跡公園があり、三階の連絡橋で繋がっています。堅穴式住居や高床式倉庫が復元

されており、ボランティアガイドさんに案内してもらえらるほか、体験広場、草地広場などで自由に遊べます。お弁当を持って行けば、充実した夏休みの一日を過ごせるでしょう。

館内はエレベーターで行き来でき、公園もスロープがあるのでベビーカーOKです。各階の女性トイレにはオムツ替え用のベビーベッドもあります。ミルク用のお湯は準備が必要ですが、授乳の際はスタッフに声をかけると救護室を使わせてくれます。

「日産ウォーターパーク」は全天候型の温水レジャープール

次に紹介するのは、天候に左右されずにいつでも思い切り遊べる屋内プール「日産ウォーターパーク」です。

新横浜駅「8番出口」から川沿いの遊歩道を歩いて十二分。「日産スタジアム」の東ゲート広場にある大階段のわきを下り、スタジアム内に入って行くと、受付があります。残念ながらオムツが取れていない幼児は入場できませんが、満一歳〜未就

小学2年生までの子どもは、1人につき18歳以上の保護者（水着着用）の付添が必要。



＝インフォメーション＝

☆横浜市歴史博物館 ☎045-912-7777

常設展示観覧料：大人400円、小・中学生100円

（特別展観覧料は別途）

（毎週土曜は小・中・高校生無料）

☆日産ウォーターパーク ☎045-477-5040

入場料：1時間13歳以上500円、13歳未満250

円（延長30分毎13歳以上200円、13

歳未満100円）

※詳細はホームページを参照。または直接

お問い合わせください。

学児を預かってくれる「ベビーケアサービス（平日のみ、有料）」があるので、利用してみるのもよいでしょう。事前に登録手続きが必要なので、詳しくは問い合わせてください。

施設内は「アクアゾーン」と「バーデゾーン」の二つに分かれ、全部で二十二種類の温水浴施設が揃っています。アクアゾーンには流水プール、アクアプール、幼児プールがあり、身長一二〇センチ以上利用可のウォータースライダーも用意されています。バーデゾーンには泡や噴流による全身マッサージが気持ちいいワールプール、さまざまな形のノズルから温水が吹き出るアラカルトシャワーなどがあり、子どもたちが

大はしゃぎなのはもちろんのこと、大人ものんびりリラックスできて、楽しめます。

浮き輪などのフロート類は自由に持ち込め（大ききの制限あり）、ゴーグルやキャップの着用も自由。水着、タオル、浮き輪のレンタルがあり、手ぶらででかけられるのも大きな魅力です。八月の土・日曜とお盆は入場制限がかかることがあります。電話で確認してからのほうが確実です。



「なぎさ店」の紹介

今回ご紹介するのは、小田急線鶴沼海岸駅から徒歩十分ほどのところにある「アズ・ア・バードなぎさ店（運営：（福）藤沢育成会）」です。

なぎさ店は、藤沢市老人福祉センター湘南なぎさ荘の中にあります。場所柄、利用客は高齢の方が多く、くつろいだり談笑したり、皆さん思いの時間を過ごされています。



このショップがとても心地よいのは、店内がほのぼのとした優しさに包まれているからです。訪れる人生の先輩たちの温かさに支えられながら、今後多くの方に笑顔と元氣を与え続けてほしいものです。

店長の平田さんは、ゆったりとした時間を過ごしてもらうことを心がけているそうです。季節の花を飾ったり、商品のディスプレイを見やすく工夫するなど、店内は何気ない心配りに溢れています。くつろぎのひと時に欠かせない

◆アズ・ア・バードなぎさ店◆
☎0466-3612466

平塚市の巻

～気負わない福祉コミュニティ



県央南部に位置する平塚市は、東海道の宿場町として栄えた歴史があり、全国的に七夕まつりで知られています。戦後は商業都市として発達し、道路整備が進みました。南部の市街地はベッドタウンの様相がありますが、北部郊外には緑が多く残っています。定住率の高いこの地域では、住民の意思による福祉活動が定着しています。

ゆるやかなネットワークの標榜

近年、他県から平塚市への視察が増えています。「平塚市地域福祉計画」(平成十六～二十年度)と町内福祉村が関心を集めているのです。

同計画は、市域全体を計画圏域とした上で、地理的な条件やコミュニティ活動の状況を考慮して、二十三地区(概ね小学校区)を設定しています。

市行政が用意するハード

住民がつくるソフト

町内福祉村は、地域住民、行政、

町内福祉村の所在



花水地区町内福祉村

港地区町内福祉村

市社協等が協働で行う事業として平成十年度に始まりました。地区の生活課題を、地区内の様々な団体や一般公募で集まった住民が考え、解決に向けて活動する仕組みです。この仕組みを導入しようと合意形成がなされた地区に順次、設置されますが、市行政は、①活動拠点の確保、②運営費の補助、③情報の提供を担います。住民の主體的な活動の環境整備を役割としているのです。

平成十九年度現在、八地区に町内福祉村がありますが、行政主導の設置ではありません。どこまでもそれぞれの地区の意思が尊重されます。

ここでは、町内福祉村の設置を選んだ二つの地区を紹介します。

□松ヶ丘地区町内福祉村

市営住宅の集会所が主な活動場所です。「みんなの広場」という看板のかかった拠点は集会所に隣接し、月・火・水・金曜に開いており、コメディネーターが常駐しています。ダンスやダンスベル体操、手芸、ミニデ、子育て広場など、豊富な活動メニューが、高齢者、障害者、子育て中の親子、在住外国人など、地区の様々な人の支援へのパイプです。

ある日の陶芸教室には三十余名が参加していました。「出席はとりません。誰が来ていて誰が来ていないか、わかりますから。」と代表の齋藤智恵子さん。「家の前の道路を掃除していると、子どもが挨拶をしてくんです。拠点にいる人だと知っているんですね。それは嬉しいことです。」という話に、地区の見守りが自ずとあること



がうかがえます。

平成十六年に設立総会を開いた町内福祉村ですが、そのはるか以前に、村の中身はできていたのです。

□大神地区町内福祉村

今年二月、設立総会を開いた大神地区町内福祉村は、三月に拠点「大神よりきの郷」を開所しました。

様々な地域団体や住民との意思疎通を大切にすため、村の設置の検討には一年半をかけています。随時訪れる市担当職員の情報提供も活用しました。結果として、非常に行き届いた組織ができました。

大神地区町内福祉村の特徴のひとつに、メンバーの半数が男性である

ことがあります。退職後の地域デビューを鋭意、働きかけてきた成果です。呼びかけに応え、活動が続く要因として、「自分の意見が生かさ



手作りの看板に迎えられます。



秋には近所の小学生と植えたサツマイモでイモ掘りが予定されています。

れる喜び、やりがいを実感できるからではないでしょうか。」と茂田孝代表は考えています。

農園団の活動など、創意工夫にあふれた活動の今後が楽しみです。

地域に支えられ、地域を支える 救護施設・平塚ふじみ園

住民の福祉活動は、実は施策から離れたところで静かに広がっています。

生活保護法で措置がなされる救護施設の平塚ふじみ園には、日々、「平塚ふじみ園福祉友の会」(会員数…三百九十名)というボランティアグループのメンバーが来訪します。

馬鳥功会長は、「和やかに入って

きやすい場所なんです。職員の方達が利用者に一所懸命に接している姿を近隣の者は皆知っています。」と、

地区の一員として関わりを持とうという気持ちになると話します。職員が利用者の生活援助に集中できるよう、

住民が自分たちにできることを手伝おうと始まったボランティアの内容は、サークル活動、園庭の手入れ、祭などのイベントの準備と、多様です。

園が自治会の十九組に位置づけられたことも自然のなりゆきでした。



平塚市には、住民が地域の中でつながり、お互いあたりまえに助け合う文化のあることがうかがえます。

ひと・ネットワーク 178

心の底からスポーツを楽しむに

神奈川県障害者スポーツ指導者協議会
神奈川県障害者スポーツ振興協議会
会長 内野慎吾



設立10年目を迎える私ども障害者スポーツ指導者協議会の登録者は、三月末現在、600名です。しかし、実際に活動しているスポーツリーダーは200名弱。このような状況をふまえて、平成19年度は、地域における障害者スポーツの普及並びにスポーツリーダーの活動を活発化させることを最優先に掲げ、地域に根ざし、障害者の人々に心の底からスポーツを楽しんでもらえるようにしたいと考えております。

ちなみに、当協会の秦野支部では、今年度のスポーツ教室の日程が決まり、フライングディスク、ユニカール、ダーツ、ペタンク、卓球等、どなたでも気軽に参加できる軽いスポーツプログラムで開催することになっています。

一方、障害者スポーツ事業につきましては、平成19年4月より障害者(身体・知的・精神)のスポーツ事業が一元化されました。このことに伴い、名称が神奈川県障害者スポーツ振興協議会に変わり、その役割を神奈川県障害者社会参加推進センターが担うことになりました。

障害者のスポーツ、レクリエーション活動を通して、心身の健康増進と社会参加の促進という目的を達成するために、障害者スポーツに関する普及・啓発・神奈川県ゆうあいピック大会に関する事業等に鋭意取り組んでいるところです。

県社協 の ひろば

□ 役員会の動き

◇理事会 〓七月十一日(水) ①正会

員の入会申し込み、②理事の推薦、③評議員の選任、④各種委員会委員の選任、⑤平成十九年度一般会計並びに特別会計補正予算(案)

◇新会員紹介

【経営者部会】(福)宝珠会

【施設部会】特別養護老人ホームレストフルヴィレッジ、特別養護老人ホームグリーンライフ、特別養護老人ホーム稲村ガ崎きしろ、こぶし荘デイサービスセンター、川崎市たちばな中央保育園、重症心身障害児(者)施設サルビア

□ 神奈川県成長力底上げ戦力推進会議「人材確保・定着のための仕組みづくりを」

経済成長を下支えする基盤の向上を目指して国は「成長力底上げ戦略」を推進しています。その神奈川県版となる第一回円卓会議が去る六月十一日に開催され、本会の林会長が、深刻な福祉施設等の雇用現場の人材確保・定着、母子家庭等の就労機会の拡大に向けて発言しました。

円卓会議は、県知事をはじめ産業界や労働界、教育・訓練機関、国の各種機関の関係者等二十二人で構成され、「人材能力」、「就労支援戦略」、「中小企業底上げ戦略」の三本柱からなっており、公的扶助(生活保護)を受給している人がセーフティネットワークを確保しつつ、可能な限り就労による自立生活の向上を図ることなどがテーマにあがっています。

本会ではこの円卓会議に先立ち、正副会長・部会・協議会代表者等で情報交換会を開催し、改定介護保険法、障害者自立支援法下における福祉分野での厳しい経営環境、母子家庭、障害者の就労の厳しさや打開策などの意見交換を行い、円卓会議の発言内容に反映いたしました。

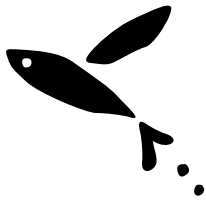
円卓会議において本会会長は、マスコミ等で報道されるような深刻な福祉現場での人材不足、早期の離職などを受けて、福祉施設の収入のある方について見直しをすべきであるとして、企業で言う成果を出す経済活動とは、福祉現場では質の高いサービスの提供であり、この質の高いサービス提供に対して介護報酬、支援費制度の見直しにより増収につな

がるような仕組みが必要であること、サービスの質の向上に向けて不可欠なベテラン職員の人件費捻出が可能なシステムにすることを強く訴えました。

また、母子家庭の母親はある調査によると福祉分野への就労を希望している人が多いが、介護職等の専門職の資格を有していない人が多く、一方、福祉現場では経営上、介護報酬に反映される有資格者を採用する傾向がある。現在、福祉現場が深刻な人材不足でありながらも無資格者の採用が困難な状況を踏まえ、働きながら資格取得に向けた研修受講ができる新たな雇用システムの導入を要望しました。

さらに、授産施設の工賃増額の厳しさを踏まえて、企業側・労働側の一層の連携をすすめる、障害者の「工賃倍増」に取り組んでほしいと要望しました。なお、第二回県円卓会議は九月以降に開催の予定となっています。

今回の情報交換会に続き、今後ともテーマごとに本会正副会長と部会・協議会の代表者と密接な情報交換を進め、一層厳しい環境におかれている福祉現場の改善、地域の基盤づく



りに向けて内外において努力していきたいと考えています。

□利用者意向調査キット

提供開始

―事業所の取組をバックアップします―

福祉サービス分野でも利用契約制度の導入により、利用者がサービス利用にかかる費用の一部を利用量に応じて直接、負担することになりました。利用者の権利意識は徐々に高まりをみせ、サービスの「質」が注目されるようになり、事業者には苦情解決やサービス評価を通して、質の向上に取り組むことが求められています。

しかし、相次ぐ制度改正等の影響による厳しい経営環境の中、サービス提供事業所では、職員確保などサービスの提供の根幹にかかわる課題への対応に追われて、質の向上に向けた取組みには、人手や時間を割きづらい現状があります。

このような現状をふまえ、本会では、事業所が効果的・効率的に質の向上をはかることができるよう、事業所からの依頼を受けて事業所と利用者を仲介し、サービスに対する満

足、不満や意見などの利用者の意向を調査する「福祉サービス利用者意向調査キット」(高齢・障害分野の施設系サービス版)を新たに設けました。

調査は所定の調査票によるアンケート方式です。事業所が利用者に調査票を配付した後、調査票の回収、集計・分析は本会が行い、調査報告書を事業所にお届けします。五月から八月にかけて先行実施したモニター調査協力事業所からは、調査結果を見て「施設で実施している調査よりも、本音の回答が多いと感じた」という声が寄せられました。

調査期間は約三ヶ月、調査費用は調査対象人数によりますが、百名の調査で六万五千円程度です。本会経営者部会による調査費用の助成制度(部会員対象)も設けられていますので、この機会にご利用ください。なお、保育分野については、来春の提供にむけ、「モニター調査」の協力事業所を募集しています。こちらもお気軽にお問い合わせください。

□新潟県中越沖地震に関する 本会の協力について

去る七月十六日に発生した新潟県中越沖地震につきまして、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一刻も早い復旧をお祈り申し上げます。

関東甲信越静岡ブロッコ都県指定都市社会福祉協議会では、「災害時の相互支援に関する協定」を締結し、被災地県外からの協力について幹事県(本年度は山梨県・千葉県)を中心に取りまとめを行い、支援することとなっています。この度、要請に基づき、本会では七月二十三日～二十六日、八月四日～七日に職員を各二名、新潟県柏崎市社会福祉協議会柏崎市災害ボランティアセンターに派遣し、災害ボランティアセンターの運営支援を行いました。



義捐金の受付は次のとおりです。
郵便振替口座…0058011-23、名義人…新潟県共同募金会。現金書留…〒950-0994新潟市中央区上所2-2-2新潟ユニゾンプラザ三階社会福祉法人新潟県共同募金会。※送金手数料、郵送料が免除になる期間があります。郵便局でお問い合わせください。

私のおすすめの1冊



『葉っぱのフレディ ーいのちの旅ー』

レオ・バスカーリア作
みらいな訳

県社協地域福祉部
参事 荒田一夫

ほのぼのとした気持ちにさせてくれる、
読んだ後、あたたかい気持ちでいられる。
そのような本を読みたいと思っている
貴方にお薦めの一冊。

アメリカのレオ・バスカーリアという
哲学者が「いのち」について子どもたち
に書いた絵本です。

葉っぱのフレディが、親友で物知りの
ダニエルから、季節を通していのちの大
切さを学びます。

生きてきた意味についての問いかけ
と同時に、作者の「いつかは死ぬさ。で
も“いのち”は永遠に生きているの
だよ。」という、す
ばらしいメッセー
ジは、私たち読者
に対して、明日へ
の希望を与えてく
れるのです。



1998年10月刊
定価1,575円(税込)
童話屋

「福祉情報資料室」をご利用ください！

閲覧室のほか、文献検索、利用相談等
のサービスを行っています。

◆利用時間：月～金(第3金曜、祝日、年
末年始等を除く)の9時～17時

◆問合せ：☎045-311-8865
FAX045-313-9341

◆インターネットでの資料検索

[http://www.progress.co.jp/members/
jinsyakyo/tosyo/](http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/tosyo/)

～「新着情報コーナー」をぜひご利用ください！～

★マクロからミクロのジェネラリ
ストソーシャルワーク実践の展開
(穴戸明美監訳、筒井書房)
★演習形式によるクリティカル・
ソーシャルワークの学び(内省的
思考と脱構築分析の方法(北川清
一、松岡敦子、村田典子著、中央

★読んでみよう！★ともに生き
るゝたとえ産声をあげなくとも
(流産・死産経験者で作るボコ
ズママの会編、中央法規)
流産・死産で子どもを亡くし
た母親の体験談と、医師や助産
師など医療従事者による執筆文
章との二部構成になつていま
す。母親の想いと心のケアの充
実が求められる現状が、十一も
の体験談を通じて語られます。

★法規
★精神科ソーシャルワーカーの実
践とかかわり(御万人の幸せを願
つて(名城健二著、中央法規)
★こんなとき私はどうしてきたか
(中井久夫著、医学書院)
★臨床に必要な公的扶助(公的扶
助論(伊藤秀一編、弘文堂)
★高齢者施設における看護師の役
割(鳥海房枝著、雲母出版)
★「パーソンセンタード・ケア」改
訂版(認知症・個別ケアの創造
的アプローチ(スーベンソン編、
かもがわ出版)
★わかるわかる認知症ケア(橋本
泰子編、全国社会福祉協議会)
★視覚障害リハビリテーション概
論(坂本洋一著、中央法規)
★私たちの指導計画2007
・1・2歳児(全国社会福祉協議
会)
ほか4冊

★平成17年度 社会福祉行政業務
報告(福祉行政報告例)(厚生統計
協会)
★少年非行の概要(平成18年中)
(神奈川県警察本部)
★ひばりが丘レポート(神奈川県
ひばりが丘学園)

★価値あり！★障害者の多様な
就業形態の実態と質的向上等の
課題に関する研究(高齢・障害
者雇用支援機構障害者職業総合
センター)
作業所など一般雇用以外の施
設に対するアンケートを行い、
厳しい状況下での成功要因を探
っています。企業と連携しつづ
仕事を創出・維持している工夫
を紹介しています。

★学生ボランティア活動の広がり
をめざして(学生自身の「気づ
き」を支援し、課題の共有化のた
めのネットワークの構築(神奈
川県社会福祉協議会)
★平成18年度 福祉・生活支援
具産業 調査・研究開発事業報告
書(雇用・能力開発機構)
★老人大学の人材育成力リキュ
ラム等検討事業報告書(長寿社会開
発センター)
★事業主、家族との連携による職
業リハビリテーション技法に関す
る総合的研究(高齢・障害者雇用
支援機構障害者職業総合センタ
ー)
★認知症グループホームにおける
看取りに関する研究事業(全国認
知症グループホーム協会)
★障害者自立支援法サービススマ
ニユアル集(豊かな地域生活支援
をめざして(神奈川県民間知的
障害施設協同会)
ほか8冊

第十三回地域福祉実践研究セミナー

持続可能な地域に向けた「福祉でまちづくり」を進めるため、「市町村合併後の地域福祉とコミュニケーション・ソーシャルワークの展開」をテーマに、実践現場に集い、8つのワークショップを開きます。

◇日時 8月30日(木) 13時～17時(土) 12時30分

◇会場 鶴岡市文化会館、出羽庄内国際村ホール

◇対象 保健福祉関係行政機関職員、社協職員、福祉施設職員、地域福祉実践に携わる職員や市民

◇定員 二百名(先着順)

◇参加費 二万五千元

◇問合先 (特非) 日本地域福祉研究所 03-5225-1023

福祉経営フォーラム

「本気で在宅医療・在宅介護なのか？」をテーマに、田中滋氏(慶應義塾大学教授)と厚生労働省社会援護局長の講演、①あいせーフティネット、②ケアタウン小平、③新宿ヒロクリニックによる先進事例リレートーク、福祉経営者による発言を行います。

◇日時 9月30日(日) 13時～17時

◇会場 日本消防会館ニッショール(地下鉄虎ノ門駅下車徒歩5分)

◇定員 七百名(先着順)

◇参加費 無料

◇問合先 日本社会事業大学フォーラム事務局 042-496-1310

高齢者いきいき居住アイデアコンテスト

生活が展開される地域、老人福祉施設、住宅、家具・生活機器などで、高齢者がいきいきする場面とその工夫を募集します。

◇選別分野と賞金 建築設計の部・1点50万円、医療・保健・福祉・介護の部・1点50万円、高齢者と家族の部・1点30万円

◇主催 大和ハウス工業株式会社、大阪市大大学院生活科学研究科

◇申込締切 9月14日(金) 16時

◇申込用紙等 ホームページによる <http://www.life.osaka-cu.ac.jp/ikiz/>

植山つる児童福祉研究奨励基金

児童福祉の実践処遇の仕事に情熱をもち、自らの技術と専門性を高めるために積極的に研究活動に励む保育士等職員の研究活動を奨励するために、研究費の一部を助成します。

◇助成金額 20万円以内

◇助成件数 年間助成総額100万円の予算において若干名

◇申込締切 8月31日(金)

◇申込先 全社協児童福祉部・植山つる児童福祉研究奨励基金運営委員会 03-3581-6503

第八回ヤマト福祉財団 小倉昌男賞

①障がい者に適した仕事や、労働環境づくりを工夫するなど、つねに障がい者の立場を考えて雇用拡大に努力し、著しい実績をあげている。

②給与をはじめ労働条件の改善を通じて働く障がい者の生活向上に大きく貢献している。③障がい者に熱心に仕事を教え、多くの障がい者をそれぞれ一人前の職業人として育てあげてきた。④働く障がい者を手助けしたり、励まして、障がい者が喜びをもって働き続けることを可能にしている。⑤働く障がい者の日常生活のよき相談相手となり、それによって多くの障がい者に生きる自信と喜びをもたらしている。そのような人物に賞が贈られます。

◇受賞者数 二名以内

◇賞金 100万円

◇募集方法 他薦による推薦形式

◇募集期間 8月1日～9月末日

◇問合先 ヤマト福祉財団事務局 03-3248-1069

寄付金品ありがとございました

【一般寄付金】▽協隆志【交通遺児援護基金】▽麻生区交通安全母の会【指定寄付金】▽神奈川福祉事業協会・神奈川県遊技場協同組合【としび基金】▽介護老人保健施設リバーリースト▽神奈川県川崎競馬組合▽鎌倉保健福祉事務所▽衣笠病院▽済生会若草病院▽スリーエフ日ノ出町駅前店▽太平館 谷口昭一▽中村浴場▽FUI三崎店▽三菱UFJニコス(株)本社▽三菱UFJニコス(株)厚木支店▽五十嵐美子▽内田輝光▽内田靖夫▽太田雄造▽関野光枝▽高橋輝雄(三六一、七六五円)

【寄付物品】▽神奈川福祉事業協会・神奈川県遊技場協同組合▽神奈川県定年間題研究会 (敬称略)

神奈川県福祉研究会

(税務・会計の専門家グループ)

理事 伊藤 正孝(045-412-2110)
同 桑江 郁男(045-402-4433)
同 辻村 祥造(045-311-5162)
同 西迫 一郎(046-221-1328)
同 林 雄一郎(0466-26-3351)
代表理事 八木 時雄(042-773-9266)

一般家庭から大型ビルまで最新のエレクトロ技術により安心と安全を提供します。

京浜警備保障株式会社

代表取締役会長 谷 口 榮
代表取締役社長 谷 口 嘉 弘

本社 〒221-0056 横浜市神奈川区金港町5番地10 金港ビル4F内
☎(045)461-0101 代表 FAX (045)441-1527

あなたの情報発信のおてつだい
デザイン・印刷・ホームページ制作



きかんし印刷
株式会社 神奈川機関紙印刷所

〒236-0004 横浜市金沢区福浦 2-1-12
営業部 TEL045(785)1700(代) FAX045(784)6802
制作部 TEL045(785)1768 FAX045(780)1588
<http://www.kki.co.jp/>



あたたかく迎えてくれるなじみの家で

小規模多機能型居宅介護 ひつじ雲（川崎市幸区）



小規模多機能型居宅介護とは、主に認知症の方が、ひとつの拠点で通い・泊まり・訪問を一体的に受けられることが特徴の介護サービスです。平成十八年四月の介護保険法改正によって登場した地域密着型サービスのひとつにあたります。

川崎市にある「小規模多機能型居宅介護ひつじ雲」（以下「ひつじ雲」）も県内に約五十カ所ある中のひとつで（平成十九年七月現在）、開設してから一年あまりが経ちました。

ひつじ雲の一日



玄関には花やベンチがあり、来た人の心もなごみます

ひつじ雲は、築四十年の民家を改装した一軒家です。定員は中心となる通所が十名、宿泊が四名で、およそ毎日八名がひつじ雲を利用しています。利用者は送

なじみの人がすぐそばにいる安心

認知症の方にとって、環境が変わることは大きなストレスになるといえます。ひつじ雲を運営するNPO法人「楽（らく）」の理事長の柴田範子さんは、「二年経ち、ようやく利用者も職員も落ち着いてきました」とふりかえります。家族にとつては、何かあっても



居間を中心に、職員と利用者の笑い声が広がります

迎後、一階の居間でおしゃべりをしたり、職員と囲碁を打ったり、さつそく風呂に入る方もいます。また、お昼が近づくときながらの台所から食事の準備の音が聞こえます。調理を手伝う利用者もあり、家族の迎えの時間まで、職員に見守られながら思い通りに過ごしています。

地域の拠点としても

ひつじ雲では、自分たちのサービスの説明ビデオを配布するなど、地域住民への投げかけを積極的に行っています。また、地域の民生委員や利用者家族、行政、学識経験者を含めて運営推進会議を持ち、地域のネットワークづくりにも力を入れています。

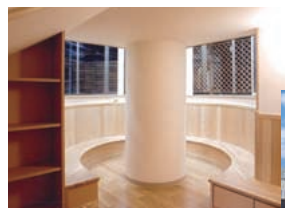
柴田さんは、「今後は、ひつじ雲を拠点にして、地域が持っているニーズを探っていきたいですね」と、小規模多機能型サービスの可能性について語ります。

小規模多機能型居宅介護ひつじ雲
神奈川県川崎市幸区幸町2-1697
TEL 044-522-4910

一社会福祉施設の設計監理一

株式会社 安江設計研究所
YASUE & ASSOCIATES'Inc.

東京都港区高輪2-19-17-808
TEL 03(3449) 1771 / FAX 03(3449) 1772
URL: www.yasue-sekkei.co.jp
E-mail: yasue@yasue-sekkei.co.jp



S保育園（横浜市）



新築・増築・改修の他、耐震診断・建物定期報告・アスベスト調査等お気軽にご相談ください